

議 長	局 長	主幹・係長	係

粕屋町議会 視察研修報告書

下記（別紙）のとおり、視察研修に参加しましたので、その内容について報告いたします。

粕屋町議会議長 末 若 憲 治 様

令和 8 年 8 月 11 日

粕屋町議会

総務常任委員

（ 川口 晃 ）

報告事項

委員会名	総務常任委員会
------	---------

【視察研修①】

日 時	令和 8 年 8 月 4 日（火）
視 察 先	福井県坂井市
研 修 目 的 （テーマ）	ふるさと納税事業の取組及び寄付金の使い道について
現状と課題	粕屋町のふるさと納税事業は危機的状況に至っている。事業額の大半を集めていた事業者が他地域に移転することになり、そのふるさと納税金が入ってこなくなった。したがって新たな事業者を見つけ作業が必要となった。 また、粕屋町には特産品と言われる返礼品がないので、新たな返礼品の開発と地域資源の活用が課題となっている。
概 要	坂井市は平成 18 年に 4 町が合併し、今年で 20 周年を迎え、今年は記念すべき年だそうだ。令和 8 年 7 月の時点の人口は 87,423 人、世帯数は 34,250 世帯で、人口は減少傾向である。今年の 1 月比で 327 人減少している。 ふるさと納税事業は坂井市誕生期より始められており歴史も長く、「寄附市民参画制度」の導入を図り、独自の道を歩んできている。学ぶべき価値がある「ふるさと納税事業」をしていることは確かである。 企画政策課「ふるさと納税推進室」という専門の部署があり、室長・主査の正規職員と 3 名の会計年度職員が所属している。坂

	井市は海の幸・山の幸が多種あり、関係する事業者数は 174 社があり、返礼品も約 1,500 種が揃えられている。我が粕屋町とは正にスケールの大きさを感じる。因みに返礼品ランキング 1 位の「もっちりシュー 8 個入り 680 円」は 7,000 件申し込みがあったそうだ。 「ふるさと納税額」の推移でみると、平成 28 年から返礼品の提供をスタートし、H29 年度は 4.5 億円。楽天ふるさと納税の参入により R01 年度は 8.8 億円、R2 年度は 12.9 億円と飛躍的に増額し、R6 年度は 17.4 億円に達したが、R7 年度はポイントの廃止と米不足の影響で、全国と同様に 15.1 億円に減額したと報告された。 原料費や人件費、委託費・運搬費等を引くと正味自由に使える額として起こるのは約 1/3 程度であるそうだ。坂井市では約 5 億円がふるさと納税事業に使用できることになるそうだ。
質 疑 応 答	「寄附市民参画制度」は何処の県にもない、坂井市独自の取り組みであった。この事業は「ふるさと納税を財源として、「寄附金の使い道を市民が提案し、決定する」事業である。目的は、①市民協働の推進、②まちづくりへの意識向上、③寄附者とのつながり創出、④坂井市への愛着を深める、ということである。つまり、市民の寄附制度事業への関心を強めてもらうことだろう。 9 名の検討委員会で寄附金の使い道を決定するのだが、提案する事業メニューは「協働街づくり」、「福祉健康」、「地域資源」・「子育て教育」、「市長おまかせ」など 10 分野の事業メニューが用意される。 「寄附金の使い道を市民公募」するわけだが、提案者は①「現状課題」、②「寄附金の活用方法」、③「事業効果」、④「予想事業費」を記載して提案するようになっている。かなり専門的知識や技術が必要な気がするが、回答者の説明では、かなりうまく進んでいるようだ。 私の質問は「結婚応援日本一プロジェクト」事業で寄附金活用予定額が約 5.7 億円で、令和 5・6・7 年の 3 ヶ年で約 3 億円が活用されている。5 ヶ年計画で順調に使用されていることがほうこくされた。少子化傾向の中で「いかに子育て世代の若い層を取り込むか、また、外に出て行かないように、繋ぎとめる」ための事業で、住宅取得やリフォームのために、最高 250 万円補助をされるのだが令和 5 年が 79 件、令和 6 年が 132 件、令和 7 年が 156 件としり上がりに活用者が増えている。回答では事業効果としては順調のように感じた。 他者の質問に対する回答でも、坂井市の「ふるさと納税制度」は健康的で、明るくて、生き生きとした事業になっていると感じた。

所 感	努力して 10 数億円の寄付を得たとしても、人件費、ポータルサイト、原料費、事業者への支払いが多額となり、1/3 しか残らないことは「労多くして、実りは少ない」と感じてしまう。 坂井市ですらそういうことだから、粕屋町においては「町の財政に大きな影響を及ぼすようなことにはならないな」とつくづく思う。 それでは、この事業の価値は何処に見出すのかが問題になる。この事業に取り組む中で「ふるさと粕屋町」に対して、粕屋町の町民が、町に対して関心と愛着を抱いて貰うことが大きな目的になるのではないかと思う。
-----	---

【視察研修②】

日 時	令和 8 年 8 月 5 日（水）
視 察 先	滋賀県草津市
研 修 目 的 （テーマ）	草津川跡地利用基本計画について（草津川跡地）区間 6 民間事業者誘致事業（公園 PFI）
現状と課題	駕与丁公園の魅力ある活用の仕方に関し、今まで議会の中で討論してきた。全国的に参考となるような公園計画を作成している自治体は無いかということで今回視察することになった。
概 要	草津市は琵琶湖に面し、また、東海道と中山道が交わる交通の要衝であり、昔から栄えた町であることが説明された。問題の旧草津川は天井川であり、洪水の時には大規模水害が懸念されていたので、この流れを廃止し、低地に新草津川を作ることにより、洪水の危険を防止しようと工事され、平成 14 年通水開始がされたそう。本当に全国的にも珍しい試みであると思う。 廃止した旧草津川跡地の利用を学識経験者や地域住民の意見を反映させるために「草津川廃川敷地利用計画懇話会」や「公開フォーラム」等を行い、8 回の委員会、市民アンケート、パブリックコメントを経て、「草津川跡地基本構想」が平成 23 年 5 月に策定された。「草津川跡地基本計画」は平成 24 年 10 月に策定された。 区間 6 の公園 PFI の実施可能性については国土交通省の地域プラットフォームでの官民対話（サウンディング）を行い、事業者から国道 1 号に隣接するエリアであり、集客を見込める可能性が得られたので実施に踏み切ったそう。区間 2,5 は設置管理許可制度を活用し、民間活力を導入している旨が報告された。 説明後は、10 分ほど歩いて現地視察に向かった。なるほど天井川で、土手の階段を上がって区間 5（de 愛広場）を 10 分ほど歩いて、区間 6 の地点に到着した。当日は天気も良く、温度も 30 数度、暑いなの、うだるような感じ。区間 6 は、国道 1 号を挟んで、今から工事がされていくので、更地のままで、広いなーと感じた。 駕与丁公園は水を利用した公園だが、この公園は、ほぼ長方形の細長い公園となる。差異は非常に大きい。
質 疑 応 答	草津川跡地公園事業全体の計画費用は約 38 億円で、その内、今回私達が視察した区間 6 の事業費は 3.5 億円だそう。これから始まる事業なので、中身に対する質問はできなかった。 長さは 0.8 km、幅は 30m 程度であると感じた。現地を

	歩いた感じでは幅は予想したようには広くは無いように感じた。 提案概要の予想図では大きな駐車場と 4 棟の建物建てられ、給食場、遊び場棟が 2 棟、屋根付き広場が 1 棟である。「公園 PFI では VFM（節減経費削減効果）は 10%と決められており、それに基づく計画となる」との事。区間 6 の事業費が 3.5 億円、15 年償却の経過だそうだから、事業予算額的には、本当に PFI 事業とする必要があるのだろうかと感じた。 この旧草津川跡地は周りより高い土手があり、川自体が天井川だったので、川原に公園が計画されている。今年の夏は非常に暑かったし、暑さ対策が必要な感じがした。
所 感	子供の居場所づくりと給食場所と駐車場という取り合わせは初めての経験である。なるほど、こういう公園もあるのかと勉強になった。ただ、区間 5 の通りは広くて、舗装がされている。今日の暑さでは、耐えられないような暑さで、区間 6 では思い切った避暑の場所が必要だろうと感じた。総じて粕屋町の公園でも暑さ対策が本当に必要だろうと感じた。 公園 PFI は VF0 は 10%に制限されており、長期間で平準化した支払いになるのだが、3～4 億円程度の事業では、メリットがどれほどあるのか疑問すら感じた。